

# けんせつ 歴史館

～1枚の写真から～

■写真の持ち主

株式会社藤木工務店

- ・日本銀行岡山支店
- ・大正11(1922)年竣工
- ・岡山市



日本銀行岡山支店(現・ルネスホール)

当社の前身である山本鑑之進工務店の創始者山本鑑之進は、築地工手学校(現工学院大学)の第一期生で、同校の創立発起人であり、自らも製図、測量等の教鞭をふるい、日本近代建築の祖と言われた辰野金吾博士に深い信頼を頂いておりました。明治23年着工の「日本銀行本店」新築工事において、工事総監督として辰野博士が着任、同工事主任の一人に山本を抜擢し、明治29年明治の建築を象徴する作品として竣工しています。その後、直営で「日本生命旧本館」、京都「都ホテル」、工務店の請負として「日本興業銀行大阪支店」等、明治大正の近代建築を手掛けました。

その後、健康を害していた山本は、すでに藤木正一が「山本の藤木」として、設計者、発注者の間で技術的な評価を高め、その誠実な人柄が愛されていたこともあり、近代建築の構築という使命を藤木に託し、事業一切を委ねて業界を引退。大正9年「藤木工務店」は山本の事業を引継ぐ形で発足しました。「日本銀行本店」の実績は、当社の創業第一作である写真の「日本銀行岡山支店」の特命受注に繋がり、後に数多くの銀行建築を手がける礎となり「銀行建築の藤木」としての評価を高めました。

「日本銀行岡山支店」は当時銀行建築の第一人者だった長野宇平治の設計で、外観は古代ギリシャ建築を完璧なまでに模しており、本格的

石造りを思わせる風格があります。正面4本の柱は柔らかな感じのするエンタシス柱。細部まで繊細に刻み込まれたコリント様式の柱頭飾りは、太柄とモルタルだけの石積みであり、1階窓下回りの蛇腹など随所に幾何学模様を石に深く刻み込まれています。その入念な仕事を見るにつけ、工期を守るための苦勞が並大抵ではなかったことが偲ばれます。

当時の資料によると同工事期間の大正10年は天候に恵まれず、梅雨が長く、大雨も多く、9月には台風に見舞われ全面を覆った上屋が剥ぎ取られるなど、自然の猛威に悩まされ、また、当時は電話も十分普及しておらず、注文や連絡も自転車に頼る始末で苦勞した様子が記述されています。

大正11年藤木正一は、「日本銀行岡山支店」の開業披露宴で、生涯の恩人として敬愛する大原孫三郎翁と出会います。「日本銀行岡山支店」の施工実績を高く評価され、孫三郎翁が頭取の第一合同銀行(現中国銀行)旧倉敷支店新築工事が特命にて決定しました。

当社創業当時のモニュメントとも云える「日本銀行岡文山店」は平成17年登録有形文化財に指定され、現在も岡山県の文化・芸術の創造拠点「ルネスホール」として現役にて活躍しています。